

Ja-Net

April 2015 No. 73

季刊ジャネット

Ja-Net は Japanese Network の略です。「にほんご」を通して編集室と読者の皆様を結ぶ情報誌にしたいと考えています。

Contents 目次

2015年4月25日発行

- View from the Other Side 3
ハヴィエル・アルベルディさん(アルゼンチン)
- あちこち日本語ご紹介〈国内編〉 4
東京都 墨田区
- あちこち日本語ご紹介〈海外編〉 5
ベトナム ホーチミン
- 教材紹介 6
『みんなの日本語中級1くり返して覚える単語帳』
『日本語 読み書きのたね』
『留学生のためのジャーナリズムの日本語
—新聞・雑誌で学ぶ重要語彙と表現—』
- なんでも情報 BOX 8

スリーエーネットワーク

巻頭
寄稿

学び方を教える授業づくり

— インストラクショナルデザイン 学ぶ人を育て、自分も専門家に —



鈴木克明

熊本大学

日本語教育の分野で、インストラクショナルデザイン(教育設計学:以下、ID)がブームになっているらしい。2015年1月21日に国際基督教大学(ICU)日本語教育研究センターが開催した短いワークショップに講師として招かれた。また、3月15日には日本語教育学会の教師研修でもIDが取り上げられ、その理論や授業改善について紹介した。いずれも筆者が熊本大学大学院の教授システム学専攻に創設専攻長として招かれから育てた、教え子の日本語教師(教授システム学修士)が一人ずつ助手を務めてくれた。

筆者はICUの学生であった時に英語科の教員免許は取得したものの、それを活用する機会がなく大学教員になった。語学とい

う点では同じだが、日本語教育については素人である。そんな私が講師に招かれたのには、それなりの理由がある。筆者の専門は教育工学・教育メディア学であり、なかでもIDの理論やモデルの活用に関心を寄せている。IDとは「教え方を教える」ための理論やモデルを研究し、教育の内容領域を問わずに応用可能な「教えるお悩み」を解決するための道具を提供するものである。この学問は汎用性があり、何を教えるときにも活用してもらえる実践的方法学だ。「授業をもっと効果的・効率的・魅力的にしたい」と願う教師の皆さんに役立ててもらえたら、とても嬉しい。これまで様々な領域で教育実践の改善を願う方々とセミナーやワークショップを開催してきたが、日本語

教育の分野からもお声がかかるのは、とてもありがたい。一方で、おそらくそれはこの領域にもIDを求める必然性が成熟してきた証左であろうと考えると、実践現場をお持ちの方にとってはそんなに平和な時代ではなく、学習者や環境の変化にお困りのこともあるのではないかと推察する。

元学生の一人が修士論文で取り上げたテーマは「カジュアルラーナー」向けのレコメンド機能であった。かつての学習者は日本での就職といった明確な目的のもと、真面目に日本語を学ぶイメージであったが、近年ではアニメやゲームなどのカジュアルなテーマにひかれて日本語学習に入ってくる人が増えた。そこで、飽きっぽく継続が難しい学習者に対して、日本語の基礎教材

をどのように味付けをして、どう配列すればよいかを研究したものだ。ここからは学習者層が変化し、それまでのような教え方が通用しない、という大変さが読みとれる。

もう一人の修士論文は、遠隔地に赴任して日本語教育を行い、帰任後のフォローをするためにはどのようなeラーニング教材があったらよいかを検討・試作して試行したものであった。ICT環境をうまく活用できれば、以前に比べ、格段に効果的で魅力的な学習環境が実現できるという点で、現代は恵まれている。それだけによりよい活用法を知りたい、というニーズも高まっているのだろう。

学ぶ側の目的も変化し、教えるための環境も刻々と変化している。また、その中で何がベストの選択肢かということも動き続けているため、よりよく教えるための苦勞も絶えることはない。

そんな現在の環境の中で教えるためには、何が必要なのだろうか？ 最初に思いつくのは、アンテナ力だろう。本誌を読んでいてこと自体、何か役立つことはないかと常にアンテナを張り巡らせていることだと言える。また、ICT時代の恩恵を生かし、インターネットで探せば、日本語教育業界の最新動向や催しなどについて、きりがなほ多く情報がある。「これは自分の学習者に使ってもらえそう」と思える教材もたくさん見つかるだろう。教育学では以前から「教育の実践者として、自分だけの努力では十分ではない。他の実践者の知恵を盗んで自分の実践を高めなさい」と教えられてきた。そのために必要なのが、アンテナ力である。

次に必要なのは、自分が不要になる日が来ることを覚悟して学習者と対峙すること。いつまでも自分の生徒でいてくれれば仕事としては安定するが、それでは自律的な学習者は育たない。自分が探しあてた「これはいい!」と思える情報や教材を学習者にも紹介し、「いいものを紹介してくれて、先生ありがとう!」と言ってもらう。これはかなり危険なこと(つまり自分が不要になるかもしれない行為)であるが、それを理解した上でこれだけ多くある学びの機会に学習者を出会わせる工夫をしたい。不思議なことに、そういう態度で臨むと、いつまでも学習者はその教師のもとを離れない。しかし、ど

んどん自分の時間でも学びを開拓してくれるので、成長は速くなる。手間がかかなくなる。きっと、「この先生は学び方を教えてくれるから自分のためになる」という安心感が醸成されるのだろう。

しかし、学習者の学習意欲を刺激して、魅力ある教育をデザインするのは容易なことではない。その難題に挑戦するための有力な伴侶として、ぜひARCSモデルに親しんでほしい。

ARCSモデルは、これまでの心理学などの研究成果と様々な分野での教育実践者の知恵を集大成したもので、学習意欲は「面白そうだ：注意(Attention)」、「やりがいがありそうだ：関連性(Relevance)」、「やればできそうだ：自信(Confidence)」、「やってよかった：満足感(Satisfaction)」の4つの課題をクリアすることで高められるとした(その頭文字をとってアークスモデルと呼ばれている)。1980年代に米国の教育工学者ジョン・ケラーが提唱して以来、授業の魅力を高めるためのIDモデルとして世界中で用いられている枠組みだ。インターネットで検索すれば、さまざまな情報を得ることができる(日本語での情報のうちの多くには筆者が関係している)。授業のやり方を振り返って、上記の4つのうちのどの要素が十分でなかったかを検討したり、また、学習者個々が抱える課題が4つのうちのどれなのかを見極めて対応策を考えたりすることができる便利な道具だ。

もう一つの提案は、ARCSモデル自体を学習者に教えてみてはどうか、ということである。授業の魅力を高めて学習者の意欲を刺激し、やる気を引き出すことが教師の仕事であることに異存はない。魅力的な授業とそうでない授業が歴然と存在することも確かである。だからこそ、学習者自身が自分の意欲の状態を診断し、何が原因でやる気が出ないのかを考え、その対策を自分自身で講ずるようになることの意義は計り知れない。これができるようになれば、自律的な学習者が誕生することになる。再び、教師不要の危険性を伴う方向に話が進むことになるが、これは教育が究極的に実現すべき状態である。教師はどうやって学べばよいかを示し、徐々にその足場を外し、自分で自律的に学べるようになった学習者を見守る脇役に退いていく。

筆者がARCSモデルを参考に提案した「学習意欲を高める作戦(学習者編)」はインターネット上で公開されているので、ぜひこちらをご覧ください。学生に「これを参考に、どうすれば自分のやる気が高まるかを考えてみてください」と言って渡してみてはどうだろうか？

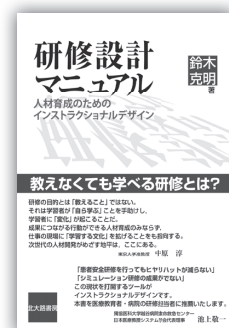
熊本大学大学院で始めたIDを学べる教授システム学専攻は、「教え方を教えます!」というキャッチフレーズで10年目を迎える。これまでに医療・看護や情報システム、教育系ベンダー、大学教職員など多様な領域の教育内容の専門家が、第二の学位(ダブルディグリー)を修めて巣立っている。教育内容の専門家であると同時に教育方法の専門家にもなる。この魅力的なプロフェッショナルの道を目指そうという仲間が、日本語教師のコミュニティでも、もっと増えてほしいと願っている。

鈴木 克明 (すずき かつあき)

熊本大学大学院教授・教授システム学専攻長。
1959年生まれ。Ph.D.(フロリダ州立大学教授システム学専攻)。
ibstpi理事(2007-2015)、日本教育工学会理事、教育システム情報学会理事、日本教育メディア学会理事・第7期会長(2012-2015)、日本イーラーニングコンソシアム名誉会員など。
著書に北大路書房発行の『教材設計マニュアル』、『授業設計マニュアル』(共編著)、『教育学を始めよう』(共訳・解説)、『インストラクショナルデザインの原理』(共監訳)、『学習意欲をデザインする』(監訳)など。

研究室ウェブサイト:

<http://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/ksuzuki/suzuki-jhtml>



鈴木克明(2015)『研修設計マニュアル-人材育成のためのインストラクショナルデザイン』(北大路書房)

学習者の目

View from the Other Side

このコラムでは、学習者の視点での話題をお届けします



居合道と出会い、学び、自分を磨く

アルゼンチンのハヴィエルさんから Ja-Net 読者の皆様に
たよりが届きました。

ハヴィエル・アルベルディ

1983 年生まれ。アルゼンチン・ブエノスアイレス出身。
現在、ブエノスアイレス国立大学で工業デザインを学びながら、フリーランスで商品のデザインや空間デザインの仕事をしています。
2003 年に居合道を始め、2012 年に無雙直傳英信流山内派居合術の門人となる。
その後、ブエノスアイレスでの居合道普及を目指し、道場を開設。
学業、仕事のかたわら、稽古に励んでいる。

初めまして、私はハヴィエル・アルベルディと申します。

アルゼンチン人で、31 歳です。住んでいる所はブエノスアイレス市です。妻と猫と住んでいます。趣味は音楽です。ギターを弾くのが大好きです。好きな音楽の種類はジャズやブルースやロックなどです。一番好きな音楽家は Stevie Ray Vaughan です。

ブエノスアイレス国立大学で工業デザインを勉強していますが、仕事もしています。

仕事はコンピューターで品物の図を書いたり、CAD (Computer Aided Design) システムを使って、3D 図から本物みたいなイメージを作ったりすることです。

子どもの時に、韓国の武道をしていましたが、高校に入ってやめました。5 年後に、家の近くにあった剣道場に行き、2 年間剣道をしていました。剣道の練習は面白かったのですが、とても激しかったです。

2003 年に無雙直傳英信流山内派居合術の関口高明先生が初めてアルゼンチンにいらっしゃって、居合道を知ることになりました。アルゼンチンの高明塾では 30 人ぐらいのアルゼンチン人が稽古しています。関口先生との出会いから、本格的に居合道をすることに決めました。居合道の魅力的な点は試合ではなくて、自分を磨くことです。

2012 年に「門人」になりました。これは高明塾の本部のメンバーになることです。今ジムを借りています。ヨーガとダンスと忍術

と教室を分け合っています。それで自分の道場ができて、居合道を教え始めました。練習は 1 週間に 4 回、生徒は 6 人です。また 1 年に 1 回、関口先生がアルゼンチンで居合道のセミナーを開いています。

居合道を通して、日本語に興味が出て来ました。2012 年 6 月から大学の一般講座で『みんなの日本語初級 I・II』を使って、日本語を勉強しました。去年 12 月に日本語能力試験 N4 に受かりました。日本語について面白いことは、言語を習いながら新しい考え方を知り、日本文化の価値観を身につけることができることです。日本語の勉強で難しいことは副詞を覚えることです。たとえば「たまたま」とか、「なかなか」とか、「たいてい」とか。

今年の目標は N3 を受けることです。日本語はまだまだできませんが、これからもっと力を入れようと思っています。

はじめて来日したのは、2014 年 3 月半ばで、桜の季節でしたが、寒かったです。今年 1 月 15 日に 2 回目の来日をする事ができました。今回の目的は、去年 11 月 18 日に私の日本語の先生と結婚したので、沖縄へ新婚旅行に行くことと高明塾の国際セミナー（日本武道館研修センター、千葉県勝浦市）に参加することでした。

このセミナーは 2 週間で、朝 5 時から稽古を始め、1 日に 3 回 3 時間の稽古でした。



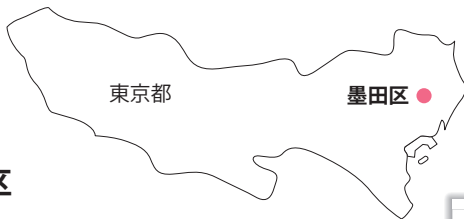
2015年2月8日、日本武道館古武道演武大会に出演

とても大変でしたが、すごく大切な機会でした。このセミナーでしかできない面白い技が習えたからです。このセミナーには日本、韓国、オーストラリア、オーストリア、フランス、ドイツ、キューバ、チリとアルゼンチンから 20 人が集まりました。セミナー中は日本武道館の第 38 回日本古武道演武大会の準備をしていました。2 月 7 日に靖国神社で、8 日に日本武道館で演武に出ました。日本武道館古武道演武大会は毎年行いますが、高明塾からは今回 18 人が参加しました。私は技を 6 つ演じました。私にとって大切なイベントで、本当に感動しました。



国内編

東京都 墨田区



ソーシャルビジネスとして生活者の課題を解決したい

ひらがなネット株式会社
戸嶋浩子

日本で暮らす外国人に、「困っていることはありませんか?」と聞くと、よく「漢字が難しい」と言われます。

漢字が読めないと、生活はどうなるでしょう。バスなどの公共交通機関が使えず、タクシー代がかさむ。酢と油を間違えて買ってしまった。子どもの幼稚園からのお知らせが読めず、学芸会をすっぽかしてしまった。こんな様々なエピソードが「漢字が読めない」ことの影響としてあります。

生活していくための近道を教える

ひらがなネットは、東京都墨田区で活動している「日本語サークル こんにちは!」のメンバーふたりが、2012年に立ち上げた株式会社です。日本語を教えるだけでは乗り越えられない様々な課題をソーシャルビジネスという方法で解決したい、支援ではなく同じ日本で暮らす生活者という立場で関係を築きたいという思いで、NPOではなく、会社という形態をとりました。

私たちは、外国人が日本で生活するための近道は何だろうかと考えます。仕事を探していれば「時給」「交通費」「履歴書」「面接」といった言葉を知ること、面接でどう受け答えをすればよいのか、仕事の挨拶はど

んなものか、など。子どもが幼稚園や小学生のお母さんであれば、まず覚えるべきは「持ち物」「連絡」「欠席」「遠足」「集合」といった言葉であり、休むときには連絡が必要なことや、様々な行事があることを知らなければなりません。

そんな生活の中で必要な情報やノウハウを、私たちは「外国人のための生活教室」で教えています。月ごとに「バス&地下鉄に乗ろう!」「病気かな、どうする?」「仕事をさがす・働く」といったテーマを設け、週に1回実施しています。1、2回目は教室で学び、4回目は実際にバスに乗ったり、看護師の話の聞いたり、ハローワークで仕事を探したりします。

3回目は、料理教室です。茶碗蒸しやお好み焼き、マカロニグラタンなど、日本の家庭料理を一緒に作り、料理の言葉も覚えます。

食が変わると、家族が明るくなる

日本人と結婚したので、日本の料理を作りたい。でも、作り方がわからない。そんなことも、よく聞かれます。

ボランティア教室に来ていたタイ人のエドさんからそう言われ、個人的に自宅で料理を教え始めたのが8年前です。日本語初級者のエドさんのために、ひらがなでレシピを書きました。3年ほどが経ち、たまったレシピを生かせないかと「ひらがなレシピ」という、ひらがなと写真で料理の作り方を紹介



ひらがなと写真で日本の家庭料理の作り方を紹介しています。www.hiragana-net.com

するウェブサイトを始めました。そして現在は「ひらがなレシピ料理教室」「きょうこ先生のハレの日料理教室」を会社で運営しています。

これまでに多くの外国人に料理を教えることができましたが、食事が変わると家族の笑顔が増えるということを実感しています。「子どもが、ママの料理が一番おいしいって言った」「また唐揚げのリピーターかかっちゃった」と、笑顔で報告してくれるのです。

3つの目標

私たちの主な目標は3つです。日本で暮らす外国人が、

- 1) 日本での生活力を上げること
- 2) 日本人の友だちを増やすこと
- 3) 言葉の問題を解決すること

1)は、近い将来には仕事自体を紹介できるようにと考えています。2)は、外国人と日本人と一緒に町歩きをする「みんなで散歩」や「田舎のお家に行こう」などのイベントを通して、楽しく交流をはかっています。3)は、言葉を教えるとともに、外国人にも分かりやすい町の表示の提案などをしていきたいと考えています。

学びも交流も、とにかく楽しく、おもしろく!を心がけています。収入面では難しさもあるソーシャルビジネスですが、たくさんの人に力を借りながら、企画を実現し、最近では様々な広がりを感じています。



楽しく料理をしながら日本語も学びます。(撮影:伊藤 真)



海外編

ベトナム ホーチミン



ベトナムは日本語教育ブームの兆し

KAIZEN 吉田スクール

上杉祐子

今年ベトナム南部解放 40 周年ですが、南北が統一された 4 月 30 日の解放記念日に先立ち、先月ホーチミン市にある統一会堂（旧大統領府）で教育活動展が行われました。幼児教育から高等教育に至る、多種多様な教育機関が出展しました。少子高齢化の日本に対して、国民の平均年齢が 27 歳のベトナムは多くの青少年がベトナム社会経済開発 10 カ年戦略の中の「2020 年工業化」をめざして、国づくりのために学んでいます。会場はたいへんな賑わいでした。ホーチミン市にある当校も出展し、模擬授業を行いました。

日本に行くベトナム人は、留学生、技能実習生、「技術」のビザによるエンジニア、そして 2013 年に始まった EPA に基づく看護師・介護福祉士候補者などです。ここ数年ベトナムからの留学生が急増しているので、この傾向が続けば、日本の大学・大学院を卒業してから日本で働く人も、徐々に増えていくかもしれません。昨年、ベトナム人留学生は 26,439 人（JASSO「平成 26 年度外国人留学生在籍状況調査結果」より）にのぼり、全留学生の 14.4% を占め、中国に次ぎ第 2 位です。1979 年から 10 年間日本語教育が行われず、留学の道もなかった状況が、1986 年からのドイモイとともに日本企業の投資も始まり、90 年代から日本との関係が修復されたことを考えると、たいへん大きな変化です。

現在、KAIZEN 吉田スクールには約 1200 名の生徒がいますが、主に製造業に携わる技能実習生、技術者、そして留学生に対する教育が行われています。特に日本語を使って仕事することに特化した日本語教育と



教育活動展会場での生産管理の模擬授業

して、日本語のみならず、マナーや日本文化、専門用語、生産管理なども授業に組み込んでいます。学校名は世界の製造業で見習われているトヨタの「改善」から採っています。2015 年度から建設業の技能実習制度が拡充されることもあり、昨年あたりから、建設分野の技能実習生だけでなく、設計、資材、施工に関わる技術者の採用も多くなっています。さらに専門は介護人材などにも広がり、日本語教育という柱は変わりませんが、試行錯誤が続くだろうと思います。5 月からは日本で実習を行って帰国した技能実習生を対象に、日本語をブラッシュアップするとともに、自分のキャリアを拓くためのビジネス日本語コースを始め、帰国者の継続教育として充実していきます。

また、ベトナムの中等教育機関では 2003 年から、外国語としての日本語教育が行われきました。2015 年 7 月から、中部のダナン市、南部のヴンダオ市では高校の第一外国語として日本語教育が始まる見通しです。両地域は日系企業の誘致も盛んで、日本語のできる人材が不足しているため、人民委員会は人材育成が急務であると発表しました。当校でも、11 ～ 15 歳の中学生の日本語クラスを計画しています。年少者の教育で



校舎のなかにも「日本」がある

も、日本語教育に留まらず、日本の文化や習慣を青少年の時から身につけ、将来、ベトナムと日本との関係作りに貢献できるように育成していきたいという目標があります。

南北に長いベトナムで、日本語教育は地域によりそれぞれ特徴がありますが、当校では、日本の企業にあった産業人材を育成する理念を念頭に、日本語教育を考えています。そこで、日本の学校では一般的な挨拶、朝礼、校内掃除などを通して、初級段階から 5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）や報連相（報告・連絡・相談）、挨拶ができるように実践しています。こうした習慣・文化を背景とした日本語教育はベトナム人と日本人の橋渡しのために不可欠です。そして人の移動や交流が盛んになれば、両国の関係も強固になります。これからも日本語を学ぶ一人一人が、夢を掲げて自分の道を築き上げられるように、働きかけていきたいと思っています。

教材紹介

みんなの日本語中級 I くり返して覚える単語帳

高梨信乃 中西久実子 著

本文 73 頁 別冊 12 頁 900 円 + 税 好評発売中



現場の声から生まれた教材

京都外国語大学
中西久実子

本書は、『みんなの日本語中級 I 本冊』（以下、『中級 I』）の新出語の確認、整理、定着を図るための単語帳のような問題集です。単語帳というのは、ことばを覚えるために繰り返して使うノートという意味です。

日本語の教科書の読解の文章は編著者によって加工されていることがしばしばあります。語彙・文法・文章構造などを学習者の習熟度やニーズに合わせるためです。しかし、加工した文章では読みの楽しさという点では不十分さが残ってしまいます。

これに対して、『中級 I』は生の文章をそのまま読解教材として使うことに徹底的にこだわった教科書です。加工された文章では味わえない文章構造や内容展開があるからです。さらに、「情報を得たい」「読みたい」という気持ちで読むと、習得という観点からも効果があり、真の意味での読解力・語学力も身につきます。その反面、生の文章に

は問題もあります。新出語が多くなってしまうのです。実際のところ、『中級 I』全体では約 1,000 語弱の新出語があり、学習者には負担になります。

『中級 I』を使って学んでいる学生からは、次のような声をよく耳にします。

意見 1 「新しいことばをたくさん覚えても、次の課に行くと忘れてしまいます。」

意見 2 「新しいことばの中でどれが大切なのかわかりません。重要語を教えてください。」

本書は、こうした声に応えるために作成された教材です。

〈特徴〉

- 特徴は次の 2 つです。
- ・繰り返して使って長期記憶になるから忘れにくい。
- ・すべての新出語の重要度が一目でわかるリストがある。

さきほどの意見 1 と意見 2 はこれで解決できます。

まず、本書は一度だけでなく、覚えられまで何度も繰り返して使うことができるように工夫されています。次に、学習者に新出語の重要度が一目でわかるように、巻末にリストをつけました。リストには以下のような 4 つのレベルがあります。

必ず覚える☆☆☆ / 覚える☆☆ / 覚えておくとよい☆ / わかればよい星の有無で「必要に応じて覚えて使ってほしい語彙(使用語彙)」「見てわかればよい語彙(理解語彙)」がわかります。各自のニーズ・目標に合わせてどれを覚えればよいかわかるようになっています。

〈内容〉

課ごとの問題、3 課ごとの「復習」、「総

復習」があり、課ごとの問題はおもに各課の新出語から作ってあります。問題は大きく分けて 3 種類あります。a) 漢字の読み方をひらがなで書く問題、b) ①②③など番号で答える問題、c) □ からことばを選んで日本語で答える問題です。

〈構成と使い方〉

『中級 I』の構成に準拠し、全 12 課からなっています。提示順も『中級 I』と同じです。以下は使い方の一例です。

① 初めて使うときは、ページの右の解答欄に答えを書き、正しいかどうかを確かめます。左の() には答えを書かないでください。② 2 回目以降は右の解答欄を見ないで(紙などで隠しておいて) 正しく答えられるかを確認します。③ 間違えたところは、何度も繰り返して覚えるようにします。

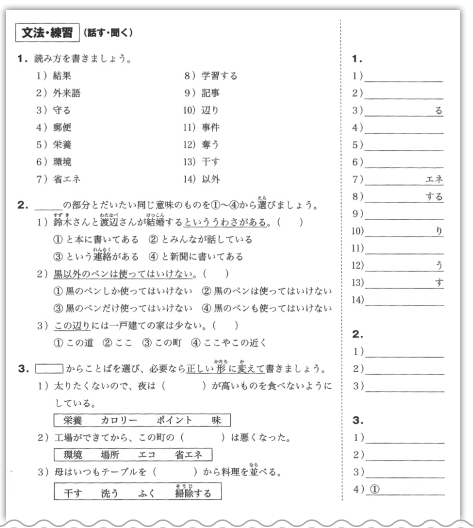
問題は以下に示すようにセクションごとの新出語で区切られています。

「文法・練習(話す・聞く)」→「文法・練習(読む・書く)」→「話す・聞く」→「読む・書く」

したがって、進度や学習方法に合わせて、セクションごとに問題に取り組みます。

さらに、「復習」、「総復習」で雑多にインプットされた語彙をカテゴリーごとに整理し、「使える知識」としてまとめあげていきます。例えば、1~3 課では「いまだに、いまさら、あいにく、わざわざ」などの副詞がバラバラに提示されますが、「復習」ではこれらをまとめて提示して正しく使い分けられるか確かめます。

本書は現場の声をもとに、学習者の負担を少しでも軽減したいと、工夫を重ねて作成されました。本書が『中級 I』の学習に役立つことを願っています。



日本語 読み書きのたね

澤田幸子 武田みゆき 福家枝里 三輪香織 著

本文 112 頁 別冊 60 頁(予定) 1,600 円 + 税 6 月発行予定



地域日本語教室で楽しく「読み書き」の活動を

三輪香織

本書は『日本語おしゃべりのたね』の姉妹版です。『日本語おしゃべりのたね』は地域日本語教室で「話すこと」を活動の中心においたテキストですが、ある程度コミュニケーションができるようになってくると、「読むこと」「書くこと」へのニーズが出てきます。また、かなり話せるのに「書くこと」は苦手だという学習者も多く、それをどのようにサポートすればいいかわからないといった日本語ボランティアの声も聞かれます。本書は、楽しく読んだり書いたりできるテキストがほしいという現場の声から生まれたものです。

各ユニットには、読み物が3つあり、うち

2つを書く活動に繋げています。読み物のテーマは『日本語おしゃべりのたね』と共通しており、登場人物が日本で暮らす生活者の目線で、自分の経験や知っていること、自分自身のことを語っています。例えば、マリアさんは、梅干し入りのおにぎりを食べてびっくりしたり、熱があっても会社へ行こうとする夫を心配したりします。その他に、遠距離恋愛の泣き笑い、日本での節約術やお祭りの話など、読んで楽しい計 60 の読み物を収録。きっと、「私も同じ!」「へえ、そうなの」「私の場合は…」など、学習者との話も弾み、読み物の理解も深まることでしょう。

また、書く活動は、テキストの読み物の内

容を十分理解したのち、その読み物をモデル文として同じパターンで、あるいは参考にして、自分のことを書くようになっています。ゼロから書くことを要求しないことで、学習者が容易に作文に取り組めるようにしました。

内容や語彙の理解の手助けとなる楽しいイラストも豊富で、別冊には語彙の英語・中国語訳と指導用の手引きが付いています。経験の浅いボランティアの方にも楽しく活動を進めることができるように工夫しました。

本書によって、学習者がそのパートナーである日本語ボランティアの手助けを得ながら、読む力、書く力をつけていただければ嬉しく思います。

留学生のための ジャーナリズムの日本語

—新聞・雑誌で学ぶ重要語彙と表現—

一橋大学国際教育センター 編 澁川晶 高橋紗弥子 庵功雄 著

本文 144 頁 別冊 8 頁(予定) 2,000 円 + 税 5 月下旬発行予定

Now
Printing

未知の語彙・表現への対処法を学び、新聞・雑誌が読めるようになる

澁川晶

内容

新聞や雑誌に使用されている語彙・表現には、元の意味から変化しているものや、日本の文化・社会に関する背景知識を要求されるものが数多くあります。新聞や雑誌を読む際、全ての語彙・表現を知っている必要はありませんが、キーになる語彙・表現を知っているか否かは理解を大きく左右しますし、その知識が文章全体の理解を支えてくれるはずですよ。

本書では、新聞・雑誌記事の豊富な用例とともに、このような語彙・表現の理解を深めます。同時に、こうした語彙・表現を知らない場合にはどのような方法で推測し読み進めればよいか、その道筋も示しています。

特徴

1. 豊富な実例

2012 年以降の朝日新聞や雑誌の経済・政治を中心とする記事、計 107 件を中心に、その中でターゲットとなる語彙・表現を示しています。

2. 理解をスムーズに導く構成

各課は、「ウォーミングアップ」で学習項目を含む記事に触れ、「この課のポイント」で学習項目を確認、「読んでみよう」と「考えてみよう」で多くの実例に触れながら、その意味を推測する練習を通して理解を深め、最後に、「この課のまとめ」で、学習した語彙・表現を確認する、という流れで、学習の準備、実践、確認作業がスムーズにできるよう配慮されています。

3. 語彙索引と社会文化情報

巻末には語彙索引があり、それぞれの語彙が使用された記事番号が振られています。また、日本の教育制度、歴代首相名など、知っておくと役立つ情報も付されています。

対象者と活用方法

日本の経済・商業関係について学ぶ留学生はもちろん、一般の上級日本語学習者が語彙・表現力を向上させるために活用することができます。また、未知の語彙・表現にどう対処するか、そのストラテジーを学ぶ教材としても最適です。また、短時間で大意を把握する「速読」の授業にも適しています。さまざまなクラスで本書を活用していただき、日本語の「底力」を上げることに貢献できるよう願っています。

なんでも情報 BOX

Books ほん

すべて本体価格です

新完全マスター聴解 日本語能力試験N3 ベトナム語版	4月発売予定	1500円
読解攻略! 日本語能力試験N1レベル	4月発売予定	1400円
留学生のためのジャーナリズムの日本語 - 新聞・雑誌で学ぶ重要語彙と表現 -	5月発売予定	2000円
日本語 読み書きのたね	6月発売予定	1600円
みんなの日本語 中級II 翻訳・文法解説 ベトナム語版	7月発売予定	1800円

Seminars

セミナー

中級読解の授業と語彙、どうしたらいい?

『みんなの日本語中級I くり返して覚える単語帳』を使った中級レベルの指導法 in 東京

『みんなの日本語中級I くり返して覚える単語帳』は『みんなの日本語中級I』に準拠した問題集ですが、既存の問題集とは異なり、学習者が繰り返し使うことによってより効果を発揮します。この研修会では、「知っている単語」を「覚えている単語」にするためのこの問題集の使い方をご紹介します。さらに「覚えている単語」を「使える単語」にする中級レベルの授業も体験していただけます。

研修会の前半では、『みんなの日本語中級I くり返して覚える単語帳』を使ってスムーズに中級レベルの語彙を定着させる方法をご紹介します。後半のワークショップでは、読解授業の実践例を体験していただき、中級レベルの授業を活性化する指導法を考えます。

講師：中西久実子(京都外国語大学)
日時：6月6日(土) 14:00 ~ 16:00
(13:30 受付開始)
会場：TKP 麴町駅前会議室(東京都千代田区麴町3-2 麴町共同ビル8階)
定員：80名(先着順。定員になり次第、締切ります。)

参加費：無料
問合せ/申込み先：
スリーエーネットワーク講座係
102-0083 東京都千代田区麴町3-4 トラスティ麴町ビル2F
TEL: 03-5275-2722 FAX: 03-5275-2729
E-mail: kouza@3anet.co.jp

お名前・ご所属・ご住所・お電話番号を明記の上、お申し込みください。
主催：スリーエーネットワーク

新刊説明会『日本語 読み書きのたね』in 大阪

初級レベルの学習者との活動では、最初は「話すこと」に重点が置かれることが多いですが、学習が進むにつれて「読むこと」「書くこと」にも関心が向いてきます。特に「生活者としての外国人」として、読み書きの能力は生活を円

滑に運営していく上で欠かせません。「何か適当な読む教材がほしい」「書くことをどのようにサポートしたらいいのだろうか」。この『日本語 読み書きのたね』は、地域日本語教室の学習者、支援者双方のそのような声から生まれた教材で、既刊『日本語おしゃべりのたね』の姉妹版です。

今回は『日本語 読み書きのたね』の内容と具体的な活用法をご紹介します。楽しく「読み書き」の活動を進める方法を皆さんと一緒に考えたいと思います。

講師：澤田幸子
(『日本語 読み書きのたね』共著者)
日時：7月4日(土) 14:00 ~ 16:00
(受付 13:30)
会場：愛日会館(大阪府大阪市中央区本町4丁目7-11)
定員：80名(先着順。定員になり次第、締切ります。)

参加費：無料
問合せ/申込み先：
スリーエーネットワーク講座係
102-0083 東京都千代田区麴町3-4 トラスティ麴町ビル2F
TEL: 03-5275-2722 FAX: 03-5275-2729
E-mail: kouza@3anet.co.jp

お名前・ご所属・ご住所・お電話番号を明記の上、お申し込みください。
主催：スリーエーネットワーク

Information

お知らせ

文章中の語彙の初出課を判定するシステム

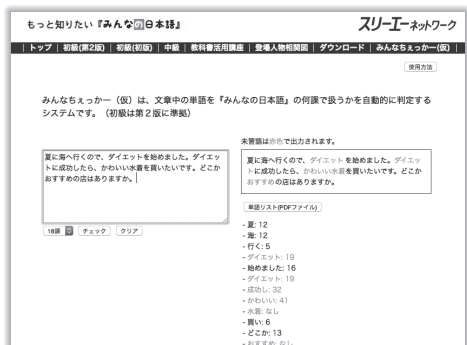
「みんなちえっかー(仮)」

甲南大学 知能情報学部 知能情報学科が開発した「みんなちえっかー(仮)」は、授業の進捗に合わせた語彙コントロールを支援するウェブシステムです。

このシステムは『みんなの日本語初級I 第2版』、『同II 第2版』に準拠しており、文章中の語彙の初出課を知ることができます。ウェブブラウザ上のテキストボックスに文章を直

接入力またはコピーペーストし、任意の課を選択すると、当該の課までの既習語と未習語が色分け表示され、さらに語彙ごとの初出課がリストアップされます。

本システムを利用することによって、『みんなの日本語初級』を利用した授業において、例文や試験問題作成などに要する時間と手間の大幅削減が期待できます。ぜひ活用ください。
ウェブサイト URL: <http://basil.is.konan-u.ac.jp/cgi-bin/minna.cgi>



Ja-Net No. 73

季刊ジャネット

スリーエーネットワークという社名は、アジア (Asia)、アフリカ (Africa)、ラテン・アメリカ (Latin America) の三つの地域をネットワークでつなぎ、相互理解と友好促進を図ろうという趣旨をシンボライズしています。

2015年4月25日発行
● 発行人 藤崎政子
● 発行所 (株)スリーエーネットワーク
第一営業部 Ja-Net 編集室
〒102-0083 東京都千代田区麴町3-4
トラスティ麴町ビル2F
TEL: 03-5275-2722 FAX: 03-5275-2729
E-mail: sales@3anet.co.jp
<http://www.3anet.co.jp/>
● 印刷 日本印刷(株)
© 2015 by 3A Corporation Printed in Japan
(禁無断転載)

● 『Ja-Net』をご希望の方はお名前・ご住所・ご所属を編集室までお知らせください。無料でお送りいたします。『Ja-Net』第74号は2015年7月25日発行です。